

歴民だより

歴史民俗資料館

平成26年度 10月号 No.12

昔の道具

(安八町郷土資料庫 蔵)



ながひばち
長火鉢

長火鉢（ながひばち）は、江戸時代の町家に欠かせない生活用具でした。初めは、木炭を使った暖房器具として武士のみが使っていましたが、やがて一般にも使われるようになりました。火鉢の中に銅製の壺の銅壺（どうこ）が入れてあり、ここで湯を沸かしてお酒を燗（かん）にしたり、また五徳（ごとく）を入れて鉄瓶を炭火にかけて、いつでも湯が使えるようにしたりしていました。また、引き出しは乾燥器として海苔や煙草を入れていました。

江戸時代～昭和初期

しょく だい
燭 台

燭台（しょくだい）とは、灯火具の一種で、ろうそくを立てる台です。日本では、灯油と灯芯による灯火具の「灯台」が早くから使われていて、平安時代には既にその形も整った物がありました。燭台がいつ頃から使われたかは、はっきりしないのですが、ろうそくが中国から伝わってきたのは鎌倉時代の末頃ではなかろうかと言われ、燭台もこれに伴って、その頃に伝来した物とも考えられています。木や金属、焼き物などの様々な素材で作られています。燭台を木と紙のおおいで囲った物を「ぼんぼり」と言い、今でもひな祭りの日にお雛様と並べて飾られています。



鎌倉時代～

ハートピア安八
- 歴史民俗資料館 -

住 所：岐阜県安八郡安八町氷取30
お問合せ：0584-63-1515